

変えよう!!!

横浜市民ファーストで

市民の命をまもる!!!

こやま
小山

まさたけ
正武

政策集要約版

2025年3月 現在

プロローグ

この横浜にまさるあらめや・・・皆様ご存じ、横浜市歌の一節。

現在の横浜は果たして横浜市歌のこの一節に表されるようなまちとなっているのだろうか。残念ながら NO だ。

港湾都市として、また、東京のベッドタウンとして、2つの顔を持ち発展してきた横浜。

市内 18 区それぞれの特徴がありながら政令指定都市の単一行政区であるがゆえに人口第二の都市としての強みを活かさず、大阪の後塵を拝すこととなる。

大阪に比して横浜の人口は約 100 万人多いにもかかわらず、法人市民税の収入は約半分。

ベッドタウンとしての横浜のポテンシャルに過度に期待し、市内企業の育成や経済の発展を疎かにした結果、市民個人への財政負担を強いることで一人当たりの個人市民税の負担は大阪の 3 割増し、莫大な財政規模を誇る東京の住民個人に対する行政サービスには遠く及ばず、人口減少社会においてこのままでは減衰の一途をたどるのではないだろうか。

コロナ禍を経て、大きく世情が変化しているにもかかわらず横浜の変化の速度はあがらず、このままでは東京・大阪はおろか他都市にも後れを取りかねない。

市民の命を守る！！・・・そのためには横浜の発展が欠かせない。

横浜の経済を、横浜の企業の手で、横浜市民の手で、発展させていく。

積極財政で横浜市内の経済を回し、パイを大きくして、市民に行政サービスとして還元する。

防災・減災対策も欠かせない。もちろん横浜の企業の手で。

横浜のことは横浜市民と横浜市内の企業で進める、これが横浜経済発展の起爆剤であり、市民をまもる力となる。

人は宝、経済発展の果実は子育て支援の充実に、現役世代の様々な支援や負担軽減に充てていく。

施策の好循環で、市民のいのちを守る。そして次の世代へつなげていく。

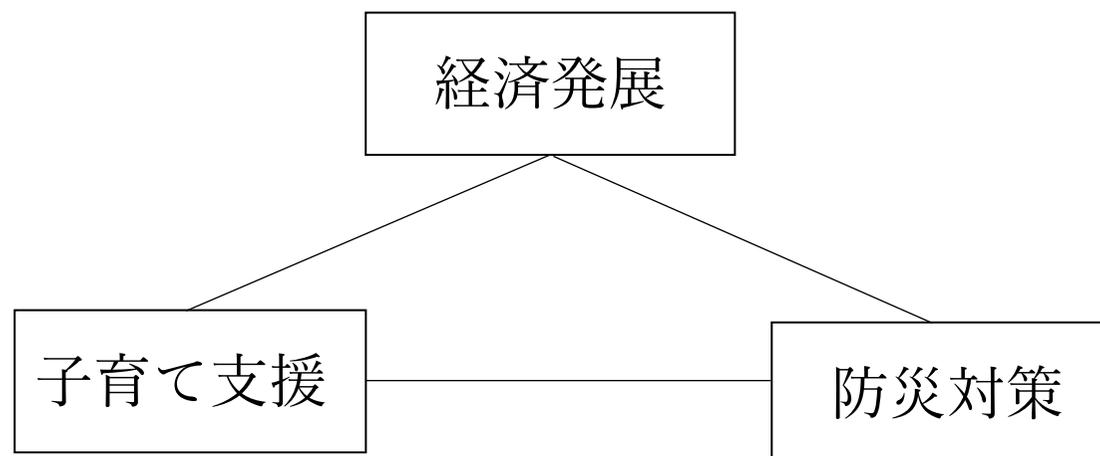
地産地消の精神で、横浜を発展させ、横浜に生を受けた市民が晩年まで横浜を選んで住み続ける、選ばれるまち横浜を、

横浜にまさるあらめやの一節に恥じない横浜を、皆様とともに作り上げていきたい。

私、小山をここまで育てていただいた横浜に、市民の皆様へ、見返りを求めずに恩返しをする。「宝積」の精神で。

横浜市民ファーストで、こやままさたけ**小山正武**の思いです。ぜひご意見をお寄せください。

こ やま まさ たけ
小 山 正 武 政策の3本柱



横浜のことは横浜で

中小企業経営の経験・実績を活かし市内での施策の循環を実現！！

横浜市民ファーストで市民の命をまもる！！

地域経済を発展～横浜経済の発展で市民の命をまもる～

- * 横浜市発注公共工事の市内企業への発注
- * 格付け制度の抜本的見直し・市内企業へのインセンティブの強化
 - 格付け基準額などを現状に即して再整備
 - 東京の大手ゼネコン・業者の搾取を許さない
- * 市外企業の分社化の促進・市内所在の法人設立に出資（50万円を上限に資本金の5%相当）
 - 資本金1000万円未満にて設立・新設法人の消費税納税免除の制度等活用により経済活性化
- * 中央卸売市場の再整備・活性化
 - 駐車場再整備によりインバウンドにも対応
 - オーシャンビューのレストランやフードコートを整備
- * 高速バス専用バスロータリーの整備
- * 観光客向け商店街中小小売業者用振興券の配布
- * 積極財政で市内経済の活性化
- * 横浜市インナーハーバーを中心にLRT（次世代型路面電車）を整備（観光・経済への起爆剤）
- * ふるさと納税を行わず横浜市へ納税した市民へのインセンティブ
 - 感謝状と1万円分の商店街中小小売業者用振興券の配布

子育て支援～少子化対策・子育て世代への支援で市民の命をまもる～

* 第3子以降、子育て応援給付金に加え市独自に100万円の応援金の給付（第2子まで20万円）

* 収入制限のない0歳児保育から義務教育終了まで子育てにかかる費用

（医療費・保育料・給食費・副教材費等）の負担ゼロを目指す（助成金や現物給付）

* 病児保育の拡大（施設の増設・時間の延長）

* 小中学校給食へ自校方式の導入を実現・給食予算の増額と給食費負担ゼロ

次項体育館建て替えにより厨房施設の整備を図る・土日は市民食堂として地域コミュニティの核に
育ち盛りの子どもたちにおいしいできたて給食をおなかいっぱい食べてもらえるように

* 小・中学校にて五感をはぐくむ教育を推進

（華道その他の体験・給食による食育（味覚をはぐくむ）など）

* 英語教育の強化（5ラウンドシステムの全市的導入等）により中学卒業までに会話レベルの習得

国際化社会・世界へ羽ばたくこどもの育成

* みどり税の廃止 現役世代の負担軽減

防災対策～基盤整備で市民の命をまもる～

* 市内業者による積極的な小・中学校全480校の体育館の建て替え

体育館建設に際してはシェルター機能を有する避難場所を設置・市民食堂としてコミュニティの核に活用

地上3階建てとし、給食や避難時の炊き出しに活用すべく厨房施設を設置

木造密集地域の中学校を優先して実施

* 風力発電等再生可能エネルギー施設の設置推進

海上や建物屋上の活用・小規模発電設備の活用

* 家庭用消火器・住宅用火災警報器の購入設置補助

各器具1台につき自己負担1,000円とし、超過分を補助

* 防災基盤となる各区役所の再整備（建て替え）

* 家屋・社屋の不燃化の推進

家屋1000万円・社屋5000万円を上限に建て替え費用の10%分を補助（市内企業の施工に限る）

* 山下ふ頭を防災（公園）広場として現状の形状を維持し再整備

有事の際の埠頭機能を維持し通常はイベント広場として使用する

シニア向け施策～活動の場をつくり市民の命をまもる～

- * 定年退職した市職員を対象に70歳まで予備公務員として登録

予備自衛官・即応予備自衛官制度を参考に天災等有事の際に経験を活かして活躍していただく

- * 市内各所公園にシニア向けバリアフリー遊歩道を整備し、地域等による遊歩大会等の開催

シニアの積極的外出の機会を創出し、地域コミュニティの再構築とともに健康長寿を図る

財源～中小企業経営の視点で市民の命をまもるために～

- * 聖域なき行財政改革 無駄をなくし市民へ還元

- * 市長の退職金ゼロで市政に還元

着任後速やかに関係条例の改正を行う

- * 予備公務員制度導入により新規採用を縮小し人件費を圧縮

- * 市内金融機関による市内企業・市民に限定した市債の発行（10年 2%・20年 3%）

により各施策に先行投資

企業の留保資産・個人資産の活用

実績～今までも、これからも、有言実行で市民の命をまもる～

* 会議費枠（交際費から除外される飲食費）の増額 ￥5,000 → ￥10,000

神奈川県調理師連合会会長として8年にわたり県議会各会派へ要望ヒアリングにて提言・要望しており、2023年に実現いたしました
飲食店をはじめ経済に活気を取り戻す施策として有効に機能しています

* 社会福祉法人水上学園（児童福祉施設）の建て替え

老朽化の進んでいた校舎の建て替えを高秀元市長時代から市長に直接要望し続け、2004年中田元市長の下で実現しました

* コットンみらいロードの開設

非常に便の悪かったコットンハーバー地区と市場通り、横浜駅・みなとみらい地区への通勤通学・生活のアクセス道路として、2016年から行政に要望し、2019年に開通いたしました

* 浦島丘中学校裏手の通学路整備

白幡東町23番地先の階段においては、木製の柵しかなくこどもの通学路として危険であったため、近隣にお住まいの方の声を受け、行政へ働きかけ、速やかな対応を要望したところ、鉄製の柵への付け替えを約1か月で実現しました

* ホライゾンポートサイドコミュニティセンターの設置

地域の代表としてYCAT跡地の整備にかかわるなかで、地域コミュニティの拠点となるスペースの確保を要望し、ホライゾンインターナショナルスクール内に市民の利用できるコミュニティスペースを設置していただきました

* 横浜中央卸売市場水産部に植樹

横浜金港ライオンズクラブメンバーとして、雑草が生い茂り未整備地となっていた水産部敷地内にハナミズキ38本とツツジ100本を植樹し、現在も定期的に手入れを行っております

* ライオンズクラブ330-B地区ガバナーとして

2011～2012年に地区ガバナーに就任、以降会員増強に努め、クラブの新設は5つを数えます
ライオンズクラブを通じた様々なアクティビティ（地域貢献活動）を行い、その拡大に貢献しています